

今後の地域医療に関する 論点について（中間案）

R8.1.13

住民ニーズと医療提供側の事情

	需要側（住民集会等）	提供側（医療機関アンケート）
医療圏	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住み慣れた鹿角で一次・二次医療を受けたい ・ 他の地域の病院に行くまでの時間的・経済的な負担がたいへん ・ 通院支援、通院システムをつくる（トイレも関係ある？） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 二次・三次医療圏の一部として、現実的なビジョンを描くべき
かかりつけ医	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合診療医によって診察できない科をなくす ・ 病気を相談できる専門医を！（専門医から診てもらえない不安がある） ・ 診療科を自分では判断できないので相談窓口の拡充が必要 ・ 顔が見える医療相談、電話 ・ SNSで身近なドクターに相談したい 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 廃業を考えている診療所がある（承継は難しいだろう） ・ むやみに診療所を誘致しても共倒れになる（ただし、歯科医師は現状でも不足） ・ かづの厚生病院が専門診療科を維持していくのは無理だろう→総合診療医を配置し、外来の非常勤専門医で補完
救急	<ul style="list-style-type: none"> ・ 緊急時の的確な判断ができる体制 ・ 総合診療医が休日・救急を整理してくれれば ・ 突然の発症とケガへの対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 総合診療は、臓器別の専門医制の現状では難しいだろう→かづの厚生病院の専門医制を維持
在宅当番	<ul style="list-style-type: none"> ・ 急な発病の薬（一人暮らし） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 在宅当番医制について制度変更不要との意見が多数だが、診療所の閉院が続けば継続は不可能との意見。 ・ 年末年始・GWだけでなく、日曜日だけでも当番薬局が必要ではないか

需要側（住民集会等）

提供側（医療機関アンケート）

訪問診療

- ・ 訪問診療に関心がある診療所は多い
- ・ 訪問診療が機能するためには在宅の介護力が必要
- ・ 訪問診療を実施している歯科診療所が多く、今後どのように縮小していくかが重要
- ・ ほとんどの薬局が訪問服薬指導に関心あり

遠隔診療

- ・ リモート診療
- ・ A I ・ D X 遠隔診療

- ・ 遠隔診療への関心はそれほど高くない（実施中もあるがニーズがない）
- ・ 歯科診療ではニーズがない
- ・ 遠隔服薬指導への関心は高い

包括ケア

- ・ 一人暮らしの人を見逃さない、地域でのつながり、支え合う関係性

- ・ 「多職種連携を進める会」を発展させ、多面的に考えるべき

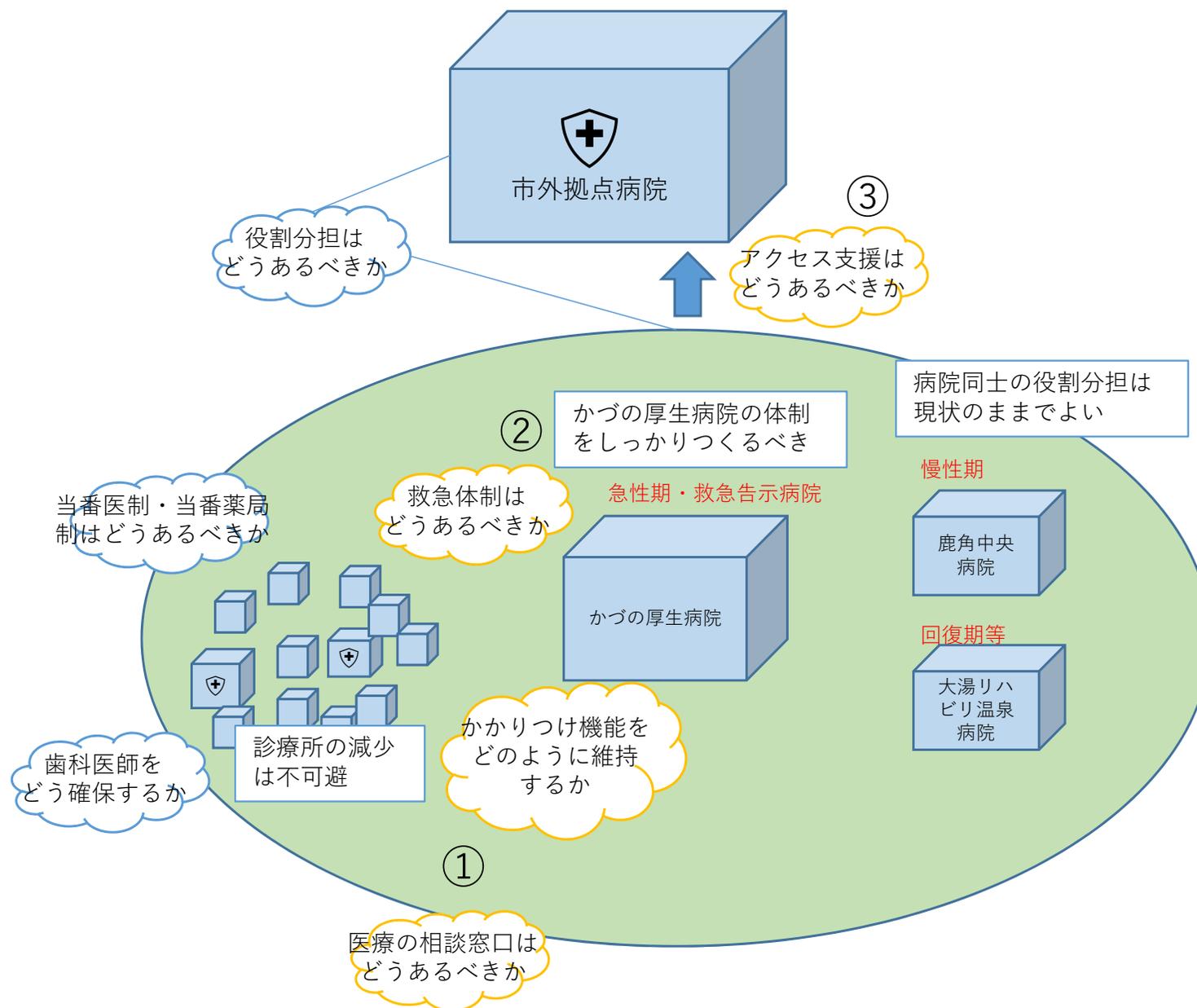
受診行動

- ・ 予約制をやめてほしい
- ・ 待ち時間が長い

- ・ 無断キャンセルが多い（歯科）

論点イメージ

⇒今回の会議では、①～③の論点についてご意見をうかがいたい



論点1. かかりつけ機能をどのように維持するか（できるか）

①診療所減の見込みの中では、かづの厚生病院がかかりつけ医機能を果たすことも選択肢と思われるが、どのような対応が必要か

- ・ 総合診療医をどう確保できるか
- ・ 大学病院の了解を得られるか

②①が無理な場合、どのような方法があるか

- ・ 電話相談の拡充で対応できるか

論点2. かつの厚生病院の救急体制・急性期機能をどのように維持するか（できるか）

- ・手術が行える病院？
- ・どんな病気が治せる病院？
- ・新地域医療構想の「高齢者救急」機能とは？

論点3. 市外の高次医療へのアクセスに必要な支援等は何か

- ・情報のとりやすさ
（どうすればよいかわかる）
- ・経済的支援